

萩原恭次郎

生誕

120

年

記念展

詩とは？ 詩人とは？

—大正詩壇展望—

恭次郎

白秋

朔太郎

犀星

賢治

心平

中也

2019 10/5(土) ~ 12/15(日)

記念講演会 無料・要事前申込 14:00~15:30 定員150名

11月17日(日) 萩原恭次郎と大正という踊り場
講師 佐々木幹郎氏(詩人)

11月30日(土) 萩原恭次郎とダダ・未来派・アナーキズム
—『死刑宣告』を中心に—
講師 塚原史氏(早稲田大学名誉教授)

朗読イベント 無料・要事前申込 14:00~15:30 定員150名

11月4日(月・休) 詩を声に翻訳する—歌い、叫び、演じ
萩原恭次郎、萩原朔太郎、宮沢賢治、草野心平、中原中也

演出 萩原朔美(前橋文学館館長) 音楽 荒木聡志 出演 手島実優、磯干彩香(あかぎ団) ほか

展示解説 申込不要、参加には企画展観覧券が必要

10月5日(土)、11月3日(日・祝)、12月7日(土) 各日 13:30~(30分間程度)

関連行事 申込・お問合せ先

☎027-373-7721

開館時間 9:30~17:00(観覧受付は16:30まで)

休館日 火曜日 ※10月22日(火)は開館、翌23日(水)は休館

観覧料 一般410円(320円)/大高生200円(160円)

()内は20名以上の団体割引料金 ※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※10月28日(月)群馬県民の日は無料



群馬県立土屋文明記念文学館
Gunma Prefectural Museum of Literature
in Commemoration of Bunmei Tsuchiya



ぐんま県民
カレッジ
連携講座



同時期開催

萩原恭次郎 生誕120年記念展 「何物も無し!進むのみ!」

2019年11月2日[土]~

2020年1月26日[日]



前橋文学館

〒370-3533 群馬県高崎市保源田町2000 上毛野ほにわの里公園内 TEL.027-373-7721 FAX.027-373-7725

後援 ●朝日新聞社前橋支局 毎日新聞前橋支局 読売新聞前橋支局 東京新聞前橋支局 産経新聞前橋支局 上毛新聞社 桐生タイムズ社 朝日ぐんま NHK前橋放送局 群馬テレビ FM GUNMA ラジオ高崎 まえばしCITYエフエム いせききFM FM OZE

詩とは？ 詩人とは？

—大正詩壇展望—

大正詩壇を大局的に見ると、その中心に在ったのは白鳥省吾、福田正夫ら民衆詩派と呼ばれる詩人たちでした。彼らは、大正デモクラシーの隆盛を背景に、民衆の生活を平明な詩語で表現し、詩の社会性を主張します。大正6年(1917)、詩人の結束を目的に詩話会が発足。民衆詩派がこの大規模団体の中核を担った事情もあり、詩の口語化、一般化が進みますが、韻律は軽視されるようになりました。

大正終盤、海外からの影響のもと、芸術革命の気運が高まりますが、そんな折、関東大震災が発生、広域に未曾有の被害をもたらしました。日本が復興に向かうなか、詩壇も大きく動き始めます。萩原恭次郎は『死刑宣告』によって既存の詩を否定し、秩序の解体を叫びました。同時期、宮沢賢治は『春と修羅』を出版。本格的に詩作を始めた草野心平は詩誌『銅鑼』を創刊。詩への専心を決意する中原中也。

それぞれにとっての「詩」とは？

本展では、時代の変動に目を向けながら、大正詩壇の様相及び日本近代詩の変遷に迫ります。

記念講演会 14:00~15:30 定員150名 無料・要事前申込

11月17日① 萩原恭次郎と大正という踊り場

講師 佐々木幹郎氏(詩人)

1947年奈良県生まれ。詩集に『蜂蜜探り』(高見順賞)、『明日』(萩原朔太郎賞)など。評論集に『中原中也』(サントリー学芸賞)、『アジア海道紀行』(読売文学賞)など。『新編中原中也全集』全6巻責任編集委員。



11月30日② 萩原恭次郎とダダ・未来派・アナーキズム —『死刑宣告』を中心に—

講師 塚原史氏(早稲田大学名誉教授)

1949年東京都生まれ。早大・京大大学院修了、パリ第3大留学。早大教授・會津八一記念博物館館長を歴任。専攻:アヴァンギャルド芸術研究、消費社会文化論。主著:『ダダイズム』(岩波現代全書)、『ダダ・シュルレアリスムの時代』(ちくま学芸文庫)、『切断する美学』(論創社)他。



朗読イベント 14:00~15:30 定員150名 無料・要事前申込

11月4日(月・休) 詩を声に翻訳する—歌い、叫び、演じ

萩原恭次郎、萩原朔太郎、宮沢賢治、草野心平、中原中也

演出 萩原朔美(前橋文学館館長) 音楽 荒木聡志 出演 手島実優、磯千彩香(あかぎ団)ほか

※事前に電話(027-373-7721)、もしくは当館受付カウンターにてお申し込みください。



※会期中に一部展示替えがあります。

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 1 萩原恭次郎『死刑宣告』
(長隆舎書店、大正14年10月) 当館蔵 |
| 3 | 4 | 2 中原中也原稿『春の夕暮』(「ノート1924」より)
中原中也記念館蔵 |
| | | 3 草野心平原稿「冬眠」
いわき市立草野心平記念文学館蔵 |
| | | 4 宮沢賢治『春と修羅』
(関根書店、大正13年4月) 当館蔵 |

[コラボ企画] 群馬県立 土屋文明記念文学館 × 前橋文学館

両館の展示をご覧いただいた方に、
『月に吠えらんねえ』
オリジナルグッズを差し上げます。
※両館の観覧券の半券を
どちらかの館の受付に
ご提示ください。

次回企画展 ▶ 「流魄の俳人 松野自得」(仮称) 2020年1月11日(土)~3月15日(日)

2階カフェ・レストラン 自家焙煎珈琲店 達乃珈琲堂
027-335-6530 営業時間 8:30~18:00 定休日 原則火曜日

交通のご案内

▼自動車

- ・関越自動車道前橋ICから15分
- ・伊香保温泉から30分

▼電車+タクシー

- ・JR東京駅から上越新幹線または北陸新幹線でJR高崎駅まで約50分
- ・JR上野駅から高崎線でJR高崎駅まで約1時間40分
- ・JR新宿駅から湘南新宿ライン(高崎線)でJR高崎駅まで約1時間40分
- ・高崎駅西口からタクシーで20分、高崎問屋町駅問屋口からタクシーで15分
- ※高崎駅⇄高崎問屋町駅はJR両毛線、上越線で1駅、約3分(1時間に数本)



▼バス

- ・高崎駅から
 - ・群馬バス橋東(しんとう)村役場行き
(西口2番バス乗り場から北高崎駅、上効口(かみさとぐち)、井出経由)
保渡田(ほどた)バス停下車徒歩3分、片道430円 ※土日祝運休
 - ・市内循環バスぐるりん大八木線
(西口9番バス乗り場)から北高(きたこう)・浜川体育館コース【下り】、お帰りは北高・浜川体育館コース【上り】井出町西(いでまちにし)バス停下車徒歩15分、片道200円

バス時刻表(2019年9月現在)

※頻繁に変更があるため、ご確認の上お出かけください。

高崎駅発	着(下車バス停)
7:35 (上り祝運休)	群馬バス 7:53 保渡田
9:45	ぐるりん 10:20 井出町西
10:35 (土日祝運休)	群馬バス 10:57 保渡田
11:41	ぐるりん 12:16 井出町西
13:40	ぐるりん 14:12 井出町西
14:35 (土日祝運休)	群馬バス 14:57 保渡田
15:22	ぐるりん 15:57 井出町西

発(乗車バス停)	高崎駅着
9:56 井出町西	ぐるりん 10:28
11:52 井出町西	ぐるりん 12:27
13:25 井出町西	ぐるりん 14:00
14:03 (祝運休、土日祝運休)	群馬バス 14:36
15:15 井出町西	ぐるりん 15:50
16:03 保渡田	群馬バス 16:36
17:02 井出町西	ぐるりん 17:38
18:03 保渡田	群馬バス 18:36

前橋駅から

- ・関越交通バス「土屋文明文学館」行き(北口5番バス乗り場から県庁前、NHK東、三ツ寺、かみつけの里博物館前経由)土屋文明文学館バス停(終点)下車徒歩1分、片道430円、前橋駅⇄土屋文明文学館は約30~35分

前橋駅発	文学館発
平日	土日・祝
平日	平日
8:40	8:40
9:45	9:45
10:30	10:50
11:45	11:45
13:50	13:50
14:00	14:55
14:55	15:55
15:55	16:55
16:55	17:35
18:25	—

※高崎駅⇄前橋駅はJR両毛線で4駅、約15分(1時間に3本程度)

群馬県立土屋文明記念文学館
Gunma Prefectural Museum of Literature
in Commemoration of Bunmei Tsuchiya

〒370-3533 群馬県高崎市保渡田町2000 上毛野はにわの里公園内
TEL:027-373-7721 FAX:027-373-7725

はにわとシルクと文学の
高崎北ミュージアムトライアングル

かみつけの里博物館 〒370-3534 群馬県高崎市井出町1514 TEL027-373-8880
群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL027-360-6300